

# デジタル推進委員として活動している方へのインタビュー

デジタル推進委員は、「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル社会」の実現に向け、デジタル大臣による応募者の任命に基づき、デジタル機器・サービスに不慣れな方等に対し、デジタル機器やサービスの利用方法をはじめ、各地のデジタルサービス、マイナンバーカードやマイナポータルの利用方法を教えたり、サポートしたりする役割を担います。

## 三好みどりさん

両親の遠距離介護をきっかけにICTの活用の必要性を実感  
その後、シニア情報生活アドバイザーとして高齢者へパソコン・タブレット・スマートフォンでネットワークの活用を広げる活動を開始  
現在は、NPOブロードバンドスクール協会に所属し、ZOOMなどを活用した「インターネット防災訓練」をとおして、遠隔でのスマートフォン講習や相談会の実施、図入りで分かりやすいスマートフォンの操作のテキスト作成などを行い活躍中



## 『デジタル機器に弱い方も理解できて、取り残されない伝え方が必要』だと感じ、デジタル推進委員に応募

ー現在所属されている団体と活動内容に対するやりがい等がありましたら教えてくださいませんか？

世界最高齢プログラマーの若宮正子さんが理事を務めているNPO法人ブロードバンドスクール協会に所属していきまして、ZOOMを活用したオンラインでの「インターネット防災訓練」（災害時に役立つインターネット活用）の講座や相談会を中心に実施しています。

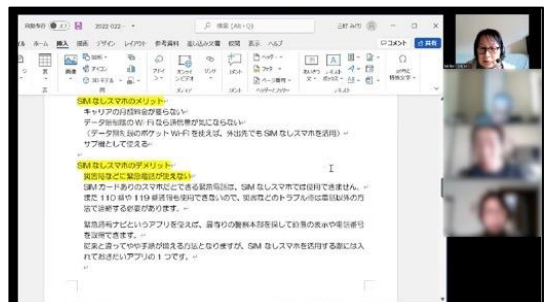
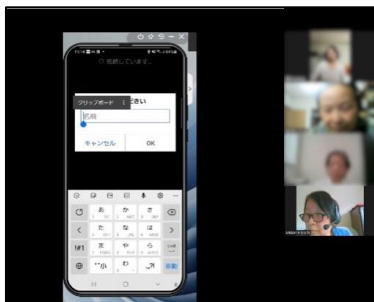
スマートフォンの相談会では、スマートフォンが怖くて使えないという方が多く、初めは本当にしかめっ面の方が多かったです。ですが、相談会がきっかけで他の参加者と友達になったり、LINEを使ってやり取りをするようになったり、スマートフォンが使えるようになったことがきっかけで笑顔に変わっていくのを見るととても嬉しく感じます。

ーデジタル推進委員に応募したきっかけを教えてくださいませんか？

20年ほど前に、当時はまだパソコンでしたが、使い方を教える機会がありまして、その時も参加されていた方の多くは高齢者の方でした。「難しくてやっていけません。」というお声も多く、「絶対これは高齢者にはついていけないな。」と痛感しました。そこで、『シニア情報アドバイザー』という資格があることを知りまして、そこで高齢者へのパソコンの伝え方を学びました。その後、デジタル庁が発足し、様々な説明会を聞いて、改めて『デジタル機器に弱い方も理解できて、取り残されない伝え方が必要』だと感じ、シニア情報アドバイザーとしての活動だけでは心もとなく思い、デジタル推進委員に応募しました。

ーデジタル推進委員としてはどのような活動をしていますか？

所属している団体として、高齢者サロンや女性だけのスマホサロンに向けて、対面もしくはZOOMを活用したオンラインでのスマートフォンの相談会を実施していますが、デジタル推進委員としての活動の中に、『マイナンバーカードやマイナポータルの使い方をサポートする』という要件がありましたので、例えば『ワクチン接種証明の使い方』などを教える機会が増えました。



# 生活に良い影響を与えることができるととても嬉しく感じる

## ーデジタル推進委員になるにあたり、活動前に不安に感じた点はありましたか？

やはりマイナンバーカードに関する内容を必ず伝えなければならないという点が、高齢者に理解してもらえるかどうか難しいだろうなと感じました。

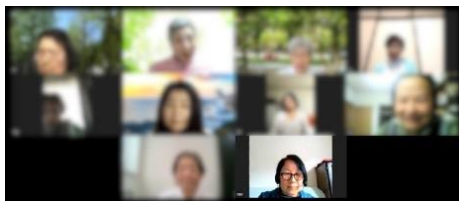
また、他の推進委員の方との連絡を取れたり、定期的な勉強会や情報共有するような場が設けられているわけではないので、経験則で教えていかなければならない点が不安に感じる方もいると思います。

## ーデジタル推進委員として活動している中で、対応が難しいと感じる点がありますか？

本来であれば、携帯ショップの役割であるスマートフォンの契約内容の相談を受けることがあります。例えば、「スマートフォンを買い換えたいけど、どの機種が良いのか。」「通信費を抑えたいけどどうしたらよいのか。」などの相談です。そのような相談は、単に推進委員個人の主観で機種やプランを勧めるわけにもいきませんし、個人情報に関わってくる部分もあるので対応が難しいですね。

## ーデジタル推進委員として活動しているなかで、嬉しかったこと、喜び、やりがいなどがあれば教えてくださいませんか？

やはり、「スマートフォンの便利な機能が使えるようになって、本当に勉強して良かった。」という声を聞くことです。例えば、「LINEができるようになって、離れて暮らしている友達や家族との顔を見て通話ができる嬉しかった。」「ワクチン接種証明を見せるだけで、ポイントや買い物券が貰えた。」など、生活に良い影響を与えることができるととても嬉しく感じます。



## 『しっかりと伝えないといけない』という責任感が強くなった

### ーデジタル推進委員になって、気持ちの変化はありましたか？

それはやはりありますね。デジタル庁のお墨付きとなり、「しっかりと伝えないといけない。」と責任感が強くなり、単なる相談員ではないと自覚が芽生えました。分からないことは今までは、「ショップに聞いてください。」と任せていた部分もありましたが、そんな無責任なことではできずと感じるようになりました。

さらに、日々勉強しなければいけないという気持ちが強くなり、相談者からの質問は勉強材料になると益々思うようになりました。

### ーこれからデジタル推進員になることを考えている方や不安があってもまだ踏み出せない方へ一言お願いします。

デジタル推進委員＝講師ではないので、全部自分が答えられる人じゃないと出来ないということではありません。ある程度のスマホの知識は必要ですが、相手の話を親身に聞いて、寄り添う気持ちがある方はデジタル推進委員になれると思います。

#### 【問い合わせ先】

デジタル庁デジタル推進委員サポートセンター

【メール】 [support@digital-promotion-staff.jp](mailto:support@digital-promotion-staff.jp)

【電話】 0120-780-325（フリーダイヤル） 平日9時30分から18時15分まで

#### 【応募方法】

デジタル庁「デジタル推進委員の取組」ページから、取組内容や募集要項等をご覧いただき、専用フォームからご応募ください。

[取組ページ]      [応募フォーム]

